

自己評価結果公表シート

2019年度

1、法人理念

三快五感の子育て

【三快】 よく食べ(快食) よく遊び(快遊) よく眠る(快眠)

【五感】 目 目を大きく見開き 遠くも近くもよく見る子
耳 耳を澄まして 大小の音を聞き分ける子
鼻 鼻を利かせ 善悪をするどく感じる子
口 舌を生かし すいも甘いも理解する子
手 手を使い なんでもよく体験する子

2、願う子どもの育ち

自分の気持ちに気づき、仲間と、元気よく遊ぶ子

3、保育方針

子どもの興味は、ひとり一人で、また、その日・その時間によっても違います。本園では、その気持ちを尊重し、子どもが自ら望んだこと、ものに取り組めるよう配慮し、それぞれの子どもの意欲をのびのび育てられるようにしています。そのため、そんな個性豊かな子どもたちに対して、同時に一つのことを教え込もうとはしません。興味を持ったものが違う子どもひとり一人へ、その子にあわせた指導・支援をすることを心がけています。それによって子ども自身が自分の気持ちに気づき、自分を大切にできるようになります。さらに自分と同じや違う気持ちを持つ仲間を認められるようになり、その仲間と共に遊ぶことが増えます。これらを続けることで「子どもの心」が育ちます。「力の育ち」も必要ですが、まず心の育ちが大切。「心」が育った上に「力」が積み重なっていくのが、子どもの育ちであると言えます。

よく遊んだ(快遊)子は空腹感をしっかりと感じる事ができ、よく食べ(快食)ます。そして十分満腹となった子はよく眠り(快眠)ます。人として成長する基本、動く・食べる・寝ることを自ら主体的に行えるようになること、それが本園の教育の基本です。

4、「子どもの育ち」のために

- 子どもが何に心を動かし、何を表そうとしているかを知り、表現する喜びを十分に味わわせるようにする。
- 遊びや自然体験を通して、子どもが感動する場を大切にしていける。また、保育者も子どもと共に夢中になって遊びに取り組むことで、遊びを充実させていく。
- みんなで遊ぶ場を設け、共に遊ぶ中で、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちに気付いたりする場を生かしていく。
- 子どもの興味関心を把握し、季節や実態および狙いにあった環境を構成しながら、その場に応じた援助をする。
- 遊びの中で少しでもできるようになったことを褒め、認めていくことで意欲を持たせていく。
- 年齢に応じた基本的生活習慣の実態を把握し、子どもが無理なく身に付けることができるような環境を工夫し、援助していく。

5、評価項目の達成状況

評価項目	評価項目詳細	職員の自己評価ポイント平均(3点満点)
I 園の基本姿勢について	教育・保育理念や目標の理解 認定こども園としての社会的責任の理解 子育て支援業務についての理解 発達の重要性を理解 職員として心構え 等	2.28
II 認定こども園教育・保育要領	第1章 総則	2.15
	第2章 ねらい及び内容並びに配慮事項	2.20
	第3章 指導計画作成にあたって配慮すべき事項	2.15
III 園独自の取り組みについて	保育方針の把握 学園化構想に対する理解 内部・外部研修への意欲を持った積極的な参加 市・地域の事業へ園が積極的に参加していることの理解 等	2.43

保育教諭自己チェック評価表

視点

- 1、教育課程や指導計画等に設定した「目標」「ねらい」は達成できたか。また、前年の反省評価は生かされたか。
- 2、日々の教育・保育に必要な環境構成及び設定は適切だったか。
- 3、園児の状況に応じて柔軟な教育・保育ができたか。また、自身の教育・保育技術の向上を必要とした部分は。
- 4、保護者との連携は十分に取られていたか。
- 5、社会人として、また、教育・保育の専門家として資質向上に努め、成果を上げることができたか。等

今年度の評価点

・一人一人の心や体の発達に目を向け、発達にあわせた遊び(おもちゃ等)や環境の設定を考えた
・研修などで聞いていても、実際にやってわかったり、疑問に思うことも出たりして、職員と話し合うことで解決していくこともできた
・月齢差によって個々に生活面や遊びの援助を行うことができた
・自分たちで少しがんばればできることは見守り、子どもが「できた」と満足感を得られるようにむづかしいところは援助を行った
・保護者にも積極的に関わるようにし、家庭での様子や子どものちょっとした変化や成長を伝えていくように心がけた
・わらべうたは初め知らない曲ばかりで余裕がなく、ただ形式的にやっていたように感じる。回数を重ねていくうちに自分自身に楽しむ余裕が生まれ、その頃から子どもたちがよく口ずさむようになったり、楽しみにする姿が増えたりした。肩の力を抜いて子どもたちと楽しむことができるようになってきた
・個別での対応が必要となる子が多く、一人一人の発達状態に沿って適切な対応、保育をいねいにしていくよう努めた
・今年度はキャリアアップ研修にも参加し、専門の知識だけでなく、保育者の資質についても深く学ぶことができた一年だった
・子どもにとって必要な声かけや関わりを十分考えて保育した。言動では肯定的な言葉掛けや家庭的な温かい雰囲気を意識した
・わらべうたを積極的にに行い、子どもと一对一の関係の中で楽しめるように努めた。その季節ならではのわらべうたを行った
・昨年度も同学年だったので子どもの発達や一年の流れなどがよくわかっていて、昨年度よりも自信をもって保育できたと思う
・これまでわらべうたへの苦手意識が強く、昨年度はやらなければ、と言う気持ちがあったが、今年度はおもしろさを感じられるようになり、子どもたちといっしょに楽しめるようになった
・戸外遊びでは、サライ先生から指導を受けて学年で考え、ボール・長縄・平均台など子どもたちが体を動かして楽しめるようなものを用意した
・遅番のひまわりの部屋の環境設定を行い、役割遊びを充実させるためにお店屋さんを作るようにしたところ、それが異年齢の交流にも繋がっていた
・毎身体操のメニューはいろいろな運動の要素を取り入れ子ども自身が自分の体をより意識できる動きにすることができた
・個々の気持ちをくみ取り、ていねいに向き合うと共に、可能な限り要求に応えられるようにした
・地域の方々々の力を借りて桜木地区に子育てサークルを作りたいという思いを持つ方々があり、地域コーディネーターも含めサークル作りの準備を進めている
・机上遊びの環境に注目し、取り組みやすいよう一人一人に合わせて遊びの援助ができた
・保育にあたっては、子どもの様子を見て動き、「今この子は何をしたいのか」を考えて行動した
・様々な研修に参加して専門的な知識を深めたことにより、環境構成の重要性や子どもへの声かけを考え、保育感がガラリと変わって実際の保育に取り入れることができた
・一日の振り返り、反省をすることで保育の向上を図り、気持ちを高めて次への保育を行うことができた
・子どもたちとの関わりを深め、個々の力量や得意不得意に目を向け、必要な経験が積めるよう日々の生活の中に意図的に取り入れたり、達成感や充実感を味わうことができるよう子どもに合わせた活躍の場を設けるよう工夫したりした。また、子どもの考え方や意識を尊重し、子どもたちからのアイデアは形にできるよういっしょに考え、すぐに日々の保育や遊びに反映されるよう心がけた
・子どもたち一人一人の発達や特徴を捉え、集団で過ごす中でも必要に応じて個に合わせた対応を考え行うようにした
・わらべうたは少しずつ理解が深まり、時間を見つけるとすぐはじめることができるようになってきた

今年度の課題点

・計画を立ててもなかなかその通りに行うことができなかった
・10月の研修で学んだ子どもたちが様々なことに気づいたり、遊びがさらに広がったりするようなきっかけになる言葉掛けをたくさんしていくことが、少しずつ意識できるようになってきているが、まだまだ足りないことを感じる
・環境は十分に配慮し設定することができたが、「そこから想像される子どもの姿」までは考えることができていなかった
・わらべうたのレパートリーがまだ少なく、やってみようと思った時にすぐに出てこない
・今年度はリーダーになり自分の意見を伝えることが多かったため、自分の言葉に責任を持ち誰にでもわかりやすく伝えることを努力してきたが、うまく伝えることができていなかった。たくさんさんの言葉を知り、また言葉の引き出しをたくさん作った上で、言葉を整理して発言できるようにしたい。保育では、子どもたちの発達段階を考え、今その子に必要なことは何かを考えて提案し実践していきたい
・クラスでよく耳にするわらべうたを自分でも歌えるように練習したい
・なぜこう言う行動を取るのかなど疑問に思ったことをもっと積極的に質問したり、調べたりするべきだった
・今年度はフリーの中で係主任をしていたが、他の学年に関わることで気づけないことが多くあったと反省した
・ハサミや糊など、もう少し早く取り入れ経験を増やすことで、もっと遊びの幅が広がり興味を持って取り組めたかもしれない
・子どもが一人一人違うのと同様。保護者も受け止め方は様々なので、些細なことでも気遣いが必要だったと感じた
・部屋の環境を良くしようと足りないおもちゃを作ったり用意したりするようにしていたが、子どもと遊べるように、より遊びが広がっていくように保育者がどう働きかけていくか考えながら保育していく。子どもたちに対しての声かけがワンパターン化しているなど感じるがあったため、柔軟に考えて発言できればいいなと思う
・育児日記や引き渡しの際、園での姿や家庭での様子を伝えていたが、把握できていないこともあり、連携が不十分だと感じた
・クラス全体を見回し、一人一人の遊びを把握することを意識しているが、より細やかに見られるよう努力を重ねたい
・遊び込める環境づくりを心がけていたが、発達段階にそった遊びをすすめているつもりでも「遊び込む」とことについての認識が曖昧で、つながりきれていない部分があった。また、約束事にとらわれすぎていて遊びの幅も狭まっていたのではないかとと思う
・戸外での遊びが決まってきてしまっている。個別での対応もあり、全体に向けてなかなか遊びを発信していくことができなかった
・戸外遊びの際に、自分から遊びを提案していくことができなかった
・環境認識に意識して収集作りをしていたが、そこから遊びへと繋げることができなかった。また環境認識をやっていく中で、子どもたちに伝えたいことと気づいて欲しいことがしっかり伝わったのかと疑問に思う。まだ自分の中で環境認識を理解していないことが原因の一つだと感じた
・覚えていたわらべうたの数が少なかった
・月齢の発達をもっと詳しく勉強したら、支援の手立てや遊びをより充実させることができたと思う
・四季や行事を感じられる環境設定が不足していたように思う

次年度への改善点

・リーダーという意識だけでなく、どのような役割を実際にできるかと言うことを考え行動できるようにする。回りの先生方の話も聞きながら務めたい
・基本的なことの復習をしたり、研修に参加して新しい知識を増やしたり、保育の振り返りを大切にしたい
・おもちゃの遊び方を何通りか考えておき、遊びが停滞している時にすぐに提案できるようにしておく
・専門職としての自覚を持ち、保護者にどうしてこのような保育や声かけをしているのか、このおもちゃや運動によってどのようなことが育つのかなどを、クラスだよりや口頭でしっかり伝えていきたい
・今年度の経験を踏まえて1年の見通しを持ちながら、学年の活動やクラスの活動を計画的に実施していきたい
・遊びのきっかけとなるものをまずはこちらが用意し、環境に設定していく。そこから子どもの姿や声を拾って発展させていくようにする
・遊びについては、次年度はもっと率先的にさまざまな活動を提案できるよう本や資料で知識を増やしたり、職員間で話し合ったりしながら保育活動を深めていきたい
・子どもひとり一人の姿を十分に理解し環境を整えていきたい。どんな遊びが好きなのかやどのような遊び方をそれぞれがするのを見極めて、一人一人の発達にあった遊びを提供していきたい
・歳児別の運動発達について把握し、一人一人の成長段階に合わせた遊びを経験させることで得意なことを伸ばし、苦手なことに挑戦しようとする気持ちに繋いでいけるようにしたい
・計画上のわらべうただけでなく、朝・帰りのひとときの場でも積極的に取り入れ、様々な曲を子どもといっしょに楽しみたい
・戸外遊びの道具をただ設定しておけばいいのではなく、いっしょに遊びながらどんな力を伸ばしたいのか、子どもたちが夢中になって遊び込めているのかを意識しながら保育したい
・わらべうたはだんだん自己流の音程になってしまうため、毎回確認して正しい音程に修正する
・遅番等で長い時間室内で過ごす時は、何か活動を用意していく。子どもといっしょに室内で遊べる簡単なおもちゃを作成したり、コピー用紙を用意して写し絵をしてみたりしていく。紙一枚で様々な遊びへと広がっていくので、子どもが興味を持つものを感じとって提供していくことを迅速に行いたい
・自分の学年だけでなく園全体に視野を向け、学年ごとの職員の様子や子どもの様子、今取り組んでいる活動などを意識してみたいようにしたい。また、細かなところは職員同士での情報共有が大切なので、自分から積極的に取り組んでいきたい
・疑問に思ったことや悩みをもっと学年主任や主幹に相談していきたい。いろいろな人の意見を聞くことにより解決方法が見つかったり他の考え方を知るきっかけとなるので、もっとコミュニケーションを取り話し合いの時間を作っていきたい
・わらべうたを積極的に紹介したり、手作りおもちゃなど親子で楽しめる遊びを考えていきたい
・保護者からの質問にスムーズに答えられるよう、園のこと、専門的な保育知識などを知り、学び続けるよう努力したい
・社会人として自分の意見をわかりやすく理解してもらえるように言語能力をもっとつけていきたい
・環境の作り方がまだ未熟なので周りの先生の工夫点や考え方を見て参考に、適切な環境を作れるようにする
・自分だけの保育にならないいろいろな角度から見ての先生方のアドバイス、また、他の先生の保育をする姿から、自分らしい保育を作るなど保育者として成長していきたい
・研修に積極的に参加し環境認識への理解を深めていく
・子どもたちが自分の経験を思い出したり気づいたり展開したり、そのきっかけになるような言葉をその都度考えながら関わる
・周りに流されず、何を最優先すべきかを見極め、子どもの姿をしっかりと把握しながら保育をすすめていきたい

クラス運営評価	視点		
	1、保育教諭等の間で必要な連携がとれていたか。 2、保育教諭等の間で必要な情報を共有できていたか。 3、主幹保育教諭等の上司と十分な話し合いの上で計画が作成できていたか。 4、クラスとして必要な記録を残すことができたか。 5、部屋の環境構成(物の配置等を含め)適切だったか。		
	今年度の評価点	今年度の課題点	次年度への改善点
	・学年間での連携がとれ、情報共有もできていると思う。長期休みの時2学期の課業案などを立てたことで、月ごとに時間を取らずにすみ、実践がスムーズにできた ・子どもたちの遊びの様子を見ておもちゃや素材を増やし、遊びが盛り上がるように展開していくよう配慮ができた ・課業、わらべうた、制作に昨年度と比べて前向きに取り組むことができた。活動を続け経験を重ねたことで、クラスでの子どもたちの取り組みの姿勢や考え方に変化も見られ、自分自身も楽しんで取り組むことができるようになってきた ・保育に悩んだ時、気になることがあった時にはクラスで保育者同士声を掛け合ったり、話をして次への具体的な保育を考えていくことができた ・環境構成も子どもたちの姿を元に想像しながら保育者同士で意見を出し合ってできたため、十分に遊んでいる子どもの姿が見られた ・環境の話や子どもの話をじっくりすることができ、大変な時は助け合い、協力しながらより良い保育ができた。主担会を何回も行うことで乳児全体の共通理解を再認識できる時間が増え、クラスでの理解だけでなく全体での理解が増し保育に繋げることができた ・学年主任が中心になって日々の保育やその日の予定など細かく確認しあい、フリーの職員との連携もスムーズだった ・昨年度と同じ保育室と言うこともあって、環境のイメージがしやすく、これまでの良い点を残しながら反省点については改善をして設定することができた ・職員の勤務が各週で違うため、朝の引き継ぎなどでの漏れがないように確認するように努めた ・クラスの主担保育者や先輩保育者が話しやすい雰囲気を作ってくれていたため、日々の保育や悩みも日頃から話し、連携をとることができた ・環境については日々子どもたちが成長していく中で、それに沿った環境を少しずつ変えながら整えていくことができた。しかしそれと同時に環境設定の難しさを改めて感じた一年だった ・1年目の職員もいたため活動や行事の進め方についてもその都度話し合う場を持ち、丁寧に伝え3クラスで連携を取ってすすめていくように努めた。また、各クラス内の様子など些細なことでも話をしていくようにした ・一人一人の子どもたちの様子が気になることやできるようになったことを、2・3か月ごとに記録するようにした。4月からの成長の様子や変化がよくわかるので行って良かった ・子どもたちの様子や動線を配慮し環境を構成した。また子どもの発言に共感したり、発言を元にお店屋さんや屋台作りなど、遊びへと繋げるなど子どもたちの一つ一つの発言や気づきを大切にしていこう心がけた ・担当以外の子どもたちの生活面での様子などをお互いに伝え合い、クラス全体で子どもの情報を共有することができた ・環境構成は子どもの姿に合わせ見直す時間を設け変えていった ・新入園児が増えた頃から週に1度の話し合いの時間を設けるようにした。保育者4人で子どもやクラス運営について話し合うことで、課題や改善点などを見つけ、より良い日課や環境づくりなどに努めることができた ・上司へ気軽に相談できる環境なので、些細なことでも相談することができている	・子どもの発達にあったおもちゃを自分でももっと考えて提案していきたい ・サライ先生の研修を経て、保育者の声かけの仕方にまだ課題があると認識した。柔軟性がなく、そこから一段階は発展させても、その後は繋がらず、そこで遊びが途切れてしまったことがあった ・伝わりされていないことや、解釈が違っていることもあるので、確認事項を複数の人数で一度でなく何回も再確認していくことは大切だと感じた ・今年は1年目の職員と組みメンターという係だった。新社会人と言うことで不安を抱えての入職になったと思うが、特に不安な前半期にもっと寄り添って心境を聞いてあげられたら良かったと思った ・1歳児は発達の段階の幅が広く、どの子も遊びが確保される環境づくりが必要であり、もっと室内環境について勉強しないといけない気持ちが出てきた ・子どもの成長や発達に合わせて保育室の環境を変えていったが、月齢差もあり全員が満足して遊び込める環境だったか、子どもの姿をしっかりと見ていく必要があった ・フリースペースを作ったがうまく使えていなかったように思う。子どもたちもどうやって使えばいいのかわからなかったと思うので、保育者がそこでどんな遊びができるのか、普段の遊びの様子から広げていくことが必要だった ・子どもたちのつぶやきなどを通して、こんな遊びを用意したら広がっていくだろうなと思いながらも、準備や設定を後回しにしてしまうことがあった ・メンターとして保育の様子が気になり見に行くようにしたが、指導助言に不足を感じた ・クラスの記録は十分に残せなかった ・クラスで話し合いがたくさんできたが、それを実行に移すのに時間がかかってしまうため、しっかりと実行していけるようにしたい。そうすればもっとより良い保育ができたと思う。主担会を4月から行っていけたらいい ・常に情報提供をして、みんなで考えることで共通理解も深まったため今後も連携を取り合って保育していくようにしたい ・環境づくりにおいておもちゃ、絵本など破損した時の対処、対応をもっと速くしていけたらと思うことがあった。子どもたちが教えて伝えてくれた時にはいっしょに直すなどして物の大切さを伝えていった ・課業の記録、反省が不十分だった	・保育者同士の話し合いがとて大切だなと感じた年だった。定期的に話す時間を設けられるよう考えていきたい ・普段の子どもたちの遊ぶ姿から課題点などを探し、そこから遊びを考えていきたい ・新曲のわらべうたを行う時は、自分だけで確認するのではなく、保育者同士で音程や方法を確認してから行うようにする ・月案、週案は、子どもたちの姿となってほしい姿と照らしながら、ねらいを持って計画するようにする ・振り返りの記録をもっとしていくようにしたい、と思いながらも毎年度なかなかできていないことなので、自分の中で重点を置く意識を持つようにしたい ・クラス運営をしていくにあたり、3人の職員がいたら3通りの考え方やアイデアがあると思うので、それをもっと引き出していけるような話し合いを取り入れていきたい。今年はその部分が足りなかったのでも一人一人の意見を聞き、それぞれがクラスを運営している意識がさらに高まるような環境を整えていく ・保育者が休憩を取るようになったのもありクラス内で話し合う時間が以前より取りにくくなっているが、その中でも時間のやりくりを効率率的に仕事をし、話し合いの機会を持てるように改善していく ・環境を構成する中で、どうしたら子どもたちが遊び込めるかを職員で話し合いを重ねていき整えたい ・環境を作って満足してしまっていたため、作った環境を子どもたちに遊んでもらえるような働きかけをしていく ・学年間の職員の良好な関係を築けるよう努め、少しの変化にも気づいて声を掛け合えることができるようにしたい ・経験を生かし、職員間で報連相・PDCAサイクルを用いてより良い保育に繋がていきたい ・記録を残す作業を後回しにしてしまうので、結果的に記録が残っていない。要点をまとめて残していく習慣をつける ・子どもの様子や気づいたことはクラス職員と話し、確認していくようにする ・話したことをしっかりと実践し、何事にも挑戦していきたい。環境のことだけでなく、子どもひとり一人のことも保育者同士で共有していき、連携を取っていきたい ・共通理解をして保育者間で情報を共有しあうと、子どもたちの姿も見え保育の向上にも繋がることを実感したため、今後も大切にしていきたい ・子どものこと、保育のこと、環境のこと、自分の考え、思いを持ってクラスの中で発言、発揮していけるよう勉強していきたい ・他クラスの担任やフリー職員、主幹教諭などと十分に連携を取り、子どもたちの姿や行動をしっかりと把握していく。またトラブルが起きたその都度、気持ちに十分に寄り添い、友だちとの関わり方を繰り返し伝えていくことで、子どもたち自身が経験を積めるように援助していく ・日課を基盤としながら、様々な活動に取り組んでいけるように先を見通して計画し、実施していく ・毎日体操や課業の日課を定着させたい
	視点		
	1、園全体として行事の内容及び運営は目標に沿って行われたか。 2、職員の研修内容とその成果は現場に反映されたか。 3、教育・保育内容の公表に努力をしたか。また、その方法は適切だったか。 4、小学校や地域の関係機関との連携に向けて必要な努力をすることができたか。 5、園全体としての今年度の教育・保育の目標やねらいは達成されたか。等		
	今年度の評価点	今年度の課題点	次年度への改善点
	・毎年同じ研修を重ねることで、大切なことを具体的に言葉で考えられるようになってきている ・子どもたちとの関わりはとても穏やかで、子どもが安心して園生活を送る姿が見られ、家庭的な雰囲気を本当に感じられる保育となっている ・今の保育を続けてきたことで、基本スタンスはだいぶ浸透してきた ・子どもにかける声の質が格段に上がってきている	・行事が少なくなってきたとしても、行事に追われやらなければいけない課業がスムーズにできない ・一人一人の子どもたちの姿から、その子にとって今どのような関わり、援助、環境が欲しいのかを、探求する気持ちが少し弱かった ・どの職員も、担っている目の前の仕事だけではなく、園全体の運営に関わっているんだという意識がまだ薄い ・トップダウン式の意志決定がまだまだ多い	・先生一人一人の考え方や思いに共感しながら、理解できないところを引き出していくようにしたい ・子どもたちの動きをよく見て、どのような関わりが必要かを一人一人が考え、話し合いの場を持ち、保育がさらに向上していけるようにしたい ・保育の基礎が新人職員にもスツと入るよう、園としてのレベルアップを目指す ・保育や行事などの内容の決定に、広く職員が関わっていく方式にしていきたい
	園全体評価		